

平成 24 年度

年 報

— 博物館はこんなことをやりました —



AZUMINO CITY TOYOSHINA LOCAL MUEUM

安曇野市豊科郷土博物館

目次

I ようこそ安曇野市豊科郷土博物館へ 博物館の概要 1

- 1 開館からの略歴
- 2 当館の目指すところ
- 3 平成24年度の活動方針

V 調査研究や企画展覧会について 調査研究活動と企画展覧会の方針 9

- 1 市直営施設になり重点的に進めたこと
- 2 安曇野の自然・歴史・民俗・芸術に関して
- 3 各展覧会の企画と展示の方法に関して

II 博物館内部はこうなっています 運営体制 2

- 1 博物館職員の紹介
- 2 館内の施設図
- 3 平成24年度予算

VI 資料センター・各資料館と連携します 他施設との連携協力体制 10

- 1 各資料館の活動と博物館との関係
- 2 文化財資料センターとの協力体制

III 博物館が取り組んでいること 主な活動実績 3

- 1 入館者数と内訳
- 2 企画した展覧会
- 3 実施した講座・講演・説明会
- 4 寄せられたご相談等への対応
- 5 市民とつくる、友の会活動
- 6 学芸員実習
- 7 館内外活動への取材と広報

VII 当館に寄せられたみなさまのお言葉 アンケートからみる外部評価 11

- 1 来館者アンケート
- 2 ご来館された方から寄せられた声

IV 所蔵している資料とその使い方 資料の管理と活用体制 8

- 1 収蔵資料数と主な内容
- 2 平成24年度に受入れた資料の概要
- 3 所蔵資料を活用している具体例

VIII 博物館のこれから 目標とみなさまへのメッセージ 13

1 開館からの略歴

昭和 54 年 4 月	多くの文化遺産の継承を使命とする生涯学習の場として豊科郷土博物館が開館しました。翌年、登録博物館になりました。以来、収蔵している自然・歴史・民俗・芸術等の資料を収蔵展示するとともに、各種企画展示を開催してきました。友の会を核とした活動も活発に続いています。
平成 17 年 10 月	5町村の合併により安曇野市が誕生しました。当館は財団法人による指定管理のもと、市唯一の博物館としての活動を継続してきました。
平成 24 年 4 月	安曇野市の直営施設となり、市の主要文化施設として文化の発信と地域に根付いた活動を行い現在に至っています。

2 当館の目指すところ

郷土安曇野の文化財から自然・歴史・民俗・芸術と対象を幅広くして収蔵・展示することで、心の豊かさを求め新たな文化創造に向けその土壌作りを目指しています。併せて、参加する博物館として生涯学習の場を提供し推進することも大切な目標としています。

3 平成 24 年度の活動方針

安曇野市直営施設として、以下の 4 点を重点目標に博物館を運営してきました。

◆ 親しみやすくわかりやすい博物館を目指します

展示内容や説明をより身近で親しみやすいものに工夫しています。安曇野市全体がわかり各地域に視野が広がる展示にも努めます。

◆ 各施設との連携を強め資料収集と保存を進めます

民俗資料館の閉鎖に伴い、新たに市文化財資料センターが設置されました。関係施設との連携を強め、資料収集と保存を進めます。

◆ 新しい来館者層へ向けた、さまざまな取り組みをしています

特に小中学生が楽しんで見学や学習ができるよう、展示物解説を新たに書き直し、クイズを考案しています。

◆ 文化の中心として博物館から発信しています

市民のみなさんが参加し体験する機会を増やす方向で、展覧会の体験型イベントや現地見学会等を多く設営するなど工夫を凝らしています。



展示室を使つての明科廃寺学習講座



市無形民俗文化財となった荻原神社のお船祭りの文化財指定書の交付式
(安曇野のお祭り展 I ファイナルイベントにて)

II 博物館内部はこうなっています

1 博物館職員の紹介

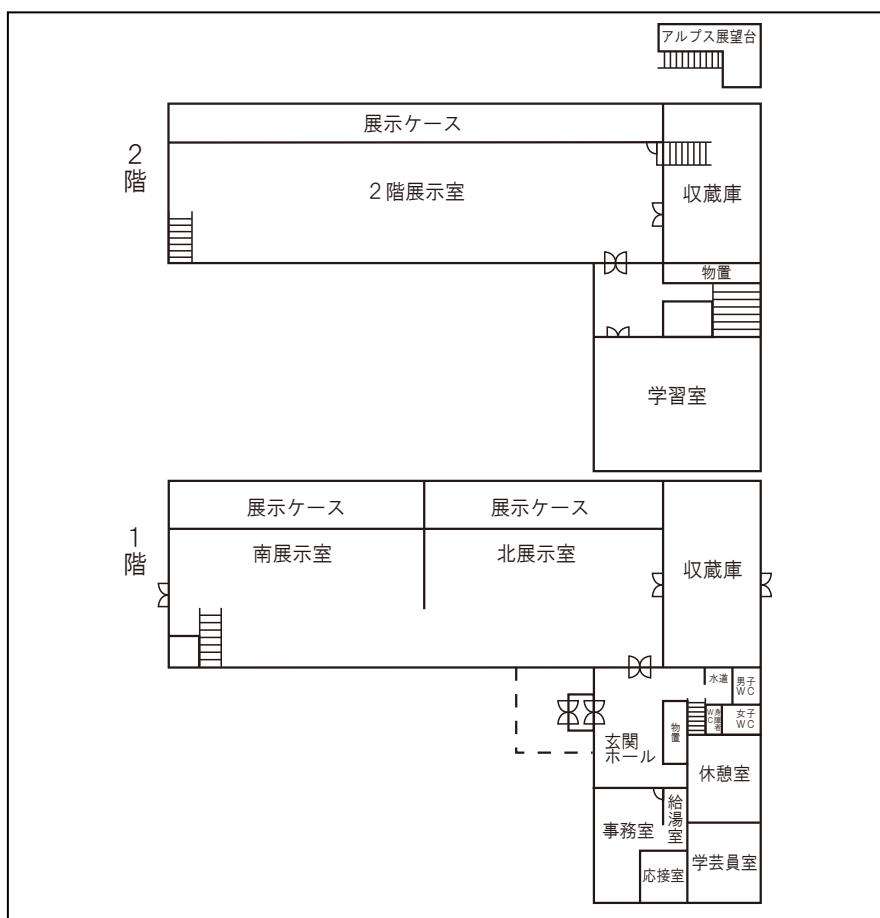
館長 百瀬新治	博物館を総括し、運営全体をみています。学芸員と同様に、展示の企画や作業に加わり講座や学習も行っています。
学芸員 逸見大悟	担当する展覧会を中心に展示の企画・実施をします。主に歴史等を研究調査し、予算や提出文書作成を担当しています。
学芸員 宮本尚子	展覧会や館内環境整備を担当し展示や掲示を進めています。民俗等を研究調査し、友の会活動や講座を担当しています。
事務員 瀧澤明子	外部との文書の作成や館の収支計算を担当しています。窓口でお客様の案内や入館者の対応をしています。
事務員 宮澤紀美子	窓口でお客様の案内や対応をしています。展示の実務的な作業や解説文の作成をサポートしています。

2 館内の施設図

■敷地面積 2,016 m²

■建物（鉄筋コンクリート造 2階建）建築面積 747 m²（延床面積 1,020 m²）

■平面図



3 平成 24 年度予算

総額 約 11,000,000 円

本年度は展示費・修理費・リース費・光熱費・人件費等に使われています。但し、「安曇野のお祭り展 I」実施については、文化庁からの国庫補助事業で行いましたので、上記の予算には含まれていません。

1 入館者数と内訳

入館利用者総数	6,333 人	(平成 23 年度数 5,122 人 対前年度比率 124%)
有料入館者数	1,686 人	(平成 23 年度数 1,437 人 対前年度比率 117%)
児童生徒入館者数	331 人	(平成 23 年度数 182 人 対前年度比率 182%)

2 企画した展覧会

① 「第 28 回白鳥写真展」

4 月 7 日(土)～5 月 6 日(日) 開館日数 27 日
 安曇野に飛来した白鳥の写真を公募し展示しました。
 出品 61 人 104 点
 入館者数 805 人 1 日平均 29.8 人



② 「写真が語る私たちの暮らし ～あぜ道の風景を通して～」
 (夏季特別展)

7 月 14 日(土)～8 月 26 日(日) 開館日数 38 日
 昭和 20 年代からの情景を写真で展示しました。
 入館者数 565 人 1 日平均 14.9 人



③ 「安曇野のお祭り展 I ～オフネがつなぐ地域の輪～」
 (秋季特別展)

10 月 20 日(土)～12 月 2 日(日) 開館日数 37 日
 安曇野を代表するオフネ祭りを参加体験型の展覧会
 スタイルで実施しました。

子供船を曳く体験イベント

入館者数 1,126 人 1 日平均 30.4 人

3 実施した講座・講演・説明会

1 博物館講座

① 「中房温泉の自然と歴史」講座

6 月 30 日(土) 参加者 20 人
 国天然記念物や登録有形文化財がある中房温泉周辺を
 現地踏査しました。

② 「古墳発掘・調査見学会」講座

第 1 回 座学 7 月 21 日(土) 参加者 21 人
 第 2 回 見学 8 月 11 日(土) 参加者 19 人
 古墳の発掘調査現場見学を含め穂高古墳群の現地学習
 をしました。



中房温泉講座 現地説明会

③「昔の暮らしを体験しよう！」講座

7月28日(土) 参加者19人

国重文曾根原家住宅を会場に虫かごづくりや、いろいろ体験をしました。



いろいろでの生活を聞きました

④「授業に地域教材を活用する」講座

7月31日(火) 参加者33人

市内各校の先生方が安曇野市内の博物館や史跡などを訪れ、授業に向け実際の場で調査研究しました。

⑤「押絵で干支をつくってみよう～巳年編～」体験講座

11月18日(日) 参加者25人

恒例になっている干支の押絵づくりに親子で挑戦しました。



親子で巳年のへびを作る

⑥「伝統食を楽しむ～祭りのおごっつお～」体験講座

11月24日(土)参加者26人

安曇野で伝統的に伝わってきた祭りの日のごちそうを手作りして食べました。



祭りのごちそうを楽しむ

⑦「冬の野鳥観察会と野鳥撮影を学ぼう！」講座

第1回 野外観察 1月19日(土)

明科御宝田遊水池 参加者14人

第2回 野外観察 2月16日(土)

明科けやきの森 参加者12人

第3回 座学 3月16日(土) 参加者12人

水辺や里山を散策しながら冬鳥の生態観察を楽しみました。



明科廃寺シンポジウム

⑧「信濃初の本格寺院・明科廃寺のなぞに迫る」

第1回 座学 1月26日(土)

豊科郷土博物館 参加者103人

第2回 シンポジウム 3月9日(土)

豊科交流学習センター『きぼう』参加者152人

第3回 現地見学 3月30日(土)

岐阜県飛騨市 参加者41人

約1300年前(白鳳期)、市内明科に建てられた廃寺を出土資料や現地見学で学びました。

2 「安曇野のお祭り展 I ～オフネがつなぐ地域の輪～」(秋季特別展) 関連講座



子供たちによる お囃子演奏（豊里）



よろいを着る体験イベント



ナイトミュージアムでのお囃子演奏（新田）



祭りの最後にオフネを壊しました

① 「オフネを曳いてお祭りを始めよう！」

9月30日（日）参加者 104人

特別展プレイベントとして親子で穂高のオフネを曳き回し楽しみました。

② 「豊里オフネ祭りの子供ばやしを聴こう」

10月20日（土）参加者 37人

オープニングイベントとして人形飾りの前で穂高豊里区の祭囃子を楽しみました。

③ 「穂高人形のよろいを着てみよう！」

10月21日（日）参加者 34人

特別展の企画で人形に着せるよろいを子どもたちに実際に身に付けてもらいました。

④ 「宵祭りへようこそ」

11月4日（日）参加者 89人

ナイトミュージアムとして宵祭りを照明や豊科新田区のみなさんのお囃子演奏で盛り上げました。

⑤ 「オフネ祭りの展開」三田村佳子氏講演

11月10日（土）参加者 50人

特別展にあわせ『風流としてのオフネ』の著者である三田村佳子氏に、安曇野のオフネ祭りの歴史とオフネの形態について講演いただきました。

⑥ 「お囃子演奏会」 演奏発表会

11月10日（土）参加者 100人

オフネを曳く時のお囃子を3団体に発表していただきました。

⑦ 「オフネ祭りに参加しよう」

12月2日（日）参加者 96人

特別展のファイナルイベントとして岩原山神社のオフネをみんなで担ぎ、転がして壊すまでを味わいました。

3 出前講座



体験教室で石臼をひく小学3年生

①「昔の暮らし体験教室」

—授業に出かけていっしょに学習しましょう—

市内全小学校 3年生約 900 人参加

出前授業 市内小中 4校約 440 人参加

要請に応じ、出前講座・授業として小学校に対する取り組みに力を注ぎました。

②「展示説明—展覧会の見どころはこれ！」

全 4 回 延べ参加者数約 100 人

担当の学芸員により各企画展覧会のねらいや代表的展示物を解説しました。

③「館内案内—郷土博物館を楽しんでください」

全 6 回 参加者 246 人

団体来館者のみなさまに館内案内や展示説明を行いました。

4 寄せられたご相談等への対応

数多くのレファレンス（問い合わせ）や調査相談がありました。少なくとも、延べ 76 件の問い合わせがありました。

5 市民とつくる、友の会活動

①各部会と会員数（ ）内は人数

絵手紙(18) 押絵(12) 郷土史(35) サクラソウ部(13) 山草(25) 刺しゅう部(7) 自然部(108)
写真部(12) 植物画部(19) 書道部(28) 水墨画(5) 美術部(30) 総計 12部 312人

②講座・学習会等の活動

各部で毎月 1～2 回の会合を催したり、探訪会や現地見学会を実施しています。友の会全体で 98 回の講座・学習会が開催され、15 回の館外研修がありました。

③展覧会の実施

全 9 回の展覧会が催されました。各部が合同で開催する総合芸術展を含めて、総計 2,732 人の観覧者がありました。

④全体活動

- ・視察研修 浜松方面 参加者 26 人
- ・美化活動 年 3 回実施 参加者総数 84 人
- ・会報発行 年 3 回



第 58 回友の会書芸展ギャラリートーク

6 学芸員実習

2名の実習希望者を受け入れ、博物館実務や展示作業を通して、体験を重視した研修を実施しました。実習生が研修をもとに自ら企画し展示等を行ったものを『実習コーナー展』として来館された方々に見ていただく機会をもちました。

7 館内外活動への取材と広報

展覧会情報と展示物の紹介、さらに体験講座や記念講演などの活動を各報道機関に周知しました。その結果、テレビでの報道が5件、新聞では関連記事も含め約30件、展覧会の感想など読者投稿が2件、催し物案内等は市広報を含めて数十件の掲載がありました。博物館からの発信が質・量ともに充実しました。



小学校への出前体験講座講師メンバー



2階常設展示室

1 収蔵資料数と主な内容

平成 24 年 4 月 1 日現在の収蔵品数と主な収蔵品名は以下のとおりです。

■歴史資料	約 13,000 点	豊科町関係旧村文書・藤森桂谷文庫・小穴亀一文庫旧吉野小学校教科書・南穂高村消防組資料・上ノ山窯跡出土資料
■民俗資料	約 1,700 点	農耕・養蚕・漁労関係資料・衣食住関係資料
■美術資料	約 300 点	小林章・藤森桂谷・井口香山・小川大系
■自然資料	約 5,200 点	動物剥製・昆虫標本・化石標本
■蔵書その他	約 7,000 点	

収蔵品総点数 約 27,200 点

2 平成 24 年度に受け入れた資料の概要

- 斎藤嘉明氏 寄贈 自然関係 写真資料等 12,700 点
- 中嶋真二氏 寄贈 中嶋亀孝 彫刻 2 点
- 豊科大口沢採取生痕化石 複製品 1 点



寄贈資料 中嶋亀孝『ぎん』

3 所蔵資料を活用している具体例

- 2 階展示室及び 1 階展示コーナーや館内各所での常設展示をしました。
- 収蔵品の中から企画展に関連した資料をできるだけ多数展示しました。
- 体験講座や出前授業で実物に触れる機会を積極的に増やすなど、館外活用も活発に行いました。

1 市直営施設になり重点的に進めたこと

- 従来の旧豊科町地域中心の資料収蔵や展示から、さらに市内全体を網羅しての調査研究と充実の展示を心がけています。併せて、常設展示内容については安曇野市全域をまんべんなく網羅するために、各資料館等の資料をより活用できる新しい展示に向けての準備に取り組んでいます。
- 年度途中で閉館となった旧明科歴史民俗資料館の資料を、特別展示コーナーにて公開しました。今後も引き続き各資料館の資料の保存と活用に取り組んでいきます。
- 出前講座で力を入れている小学3年生対象の体験教室が平成24年度初めて市内全小学校で実施できました。それにより地域素材を使つての学習が統一的にできるようになりました。
- 夏季特別展「写真が語る私たちの暮らし～あぜ道の風景を通して～」では、市内全域を対象に生活に関わるあぜ道や水田風景などの調査を行い、資料を展示しました。
- 秋季特別展「安曇野のお祭り展Ⅰ～オフネがつなぐ地域の輪～」では、市内全域で引き継がれる40以上のオフネ祭りを集約し、安曇野らしい特徴的なお祭りとして紹介しました。

2 安曇野の自然・歴史・民俗・芸術に関して

- 伝統行事や民俗儀礼を含め市内各所で催されるイベントはできるだけ現地での調査や聞き取りに出かけました。
- 古文書の解読や活用について同好会等と関わり、埋蔵文化財調査に協力することで市内における歴史の実態解明に成果を得ました。
- 学芸員が専門分野として十分な取り組みのできていない自然・芸術については、市内外の研究者や制作者のご支援ご協力により、各種講座等ができる限り実施しました。



現地調査した塚原の福俵作り

3 各展覧会の企画と展示の方法に関して

- ① 企画内容や展示について先進的な取り組みが行なわれている施設を研究し、企画段階からの準備と実際の展示について、現場を視察しながら担当者に直接教えていただくことで研修を重ねてきました。
- ② かたちのないお祭りそのものを展覧会として企画する中で、展示物から祭りの雰囲気等を体感していただく工夫等をしてきました。
- ③ 博物館の中だけで終わってしまう展示からの脱却を考え、他施設と提携した展示も含め出前展示も積極的に行ないました。
- ④ わかりやすく興味を持てる展示を目指して、展示説明文やキャプションの表現に気を配り、学べるクイズも制作しました。

1 各資料館の活動と博物館との関係

- ① 閉館によりすでに資料が文化財資料センターに移管されている明科歴史民俗資料館については、夏に発掘出土品関係の展示を実施しました。
- ② 閉館し、資料がそのままになっている三郷・堀金両資料館は、計画中の常設展示替えに活用する方向で検討しています。公開要望等については適宜対応していきます。
- ③ 当館と同じ形の展示公開を続けている穂高郷土資料館とは、展示資料の交換をするなど、連携の道を探ってきました。安曇野市全域を対象とする当館との差別化を図りながらお互いに検討を進めていきます。



旧三郷民俗資料館での展示説明会

2 文化財資料センターとの協力体制

■ これまでの経緯

安曇野市文化振興計画は、市総合計画を受けて平成 21 年度より策定作業が進められてきました。平成 23 年度計画において、市内各資料館の統廃合と有効活用を目的とする提案がされました。

資料館に収蔵されている膨大な資料を、適正に保存管理し有効活用していくには、中核となる収蔵施設に資料を集約し、統一的な方向で作業を実施する必要があるとの結論でした。

平成 24 年度事業で、旧穂高給食センターを改修し資料収集及び整理ならびに調査研究の場として「安曇野市文化財資料センター」が開設されました。

■ 来年度の方向

市内の文化財等諸資料を収蔵していく施設として資料センターが定められ、その資料展示と学芸・文化活動の拠点として当博物館の果たすべき方向性が明確になりました。両者で役割を分担しつつ、連携を密にして一体化した業務推進が求められています。

本格的な事業展開が進められる平成 25 年度には、資料センターで旧明科歴史民俗資料館の収蔵資料を中心に整理作業が本格化します。当博物館では、展示での活用や学芸研究の立場から、打ち合わせの機会を数多く設けて協力体制をより強固なものにします。特に展示に向けての資料の使用方法・整備・修復・修繕に関する後継者の育成に力を注いでいきます。

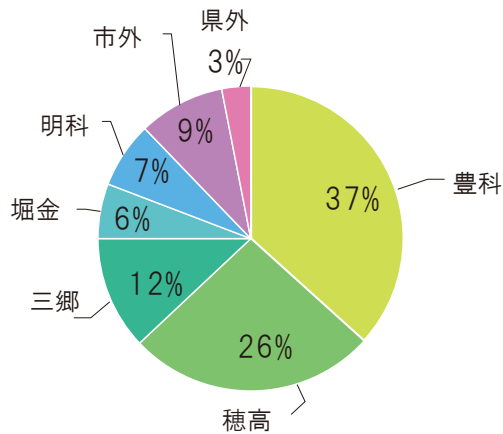


新設された文化資料センター

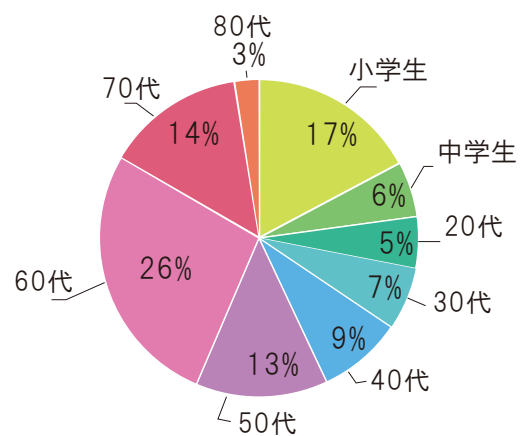
「安曇野のお祭り展 I ～オフネがつなぐ地域の輪～」(秋季特別展)で実施した来館者アンケートをまとめました。

1 来館者アンケート

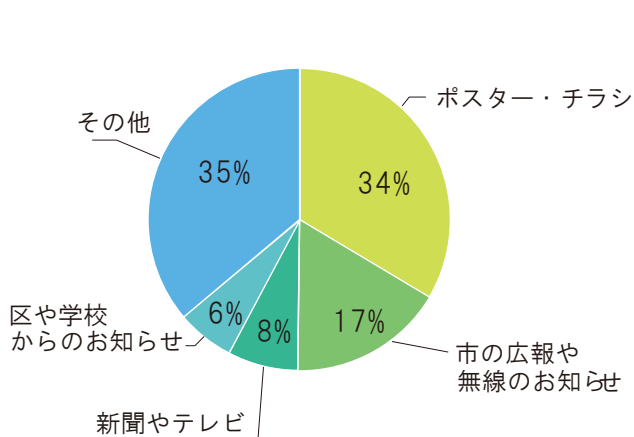
Q1 どちらからお出でいただきましたか？



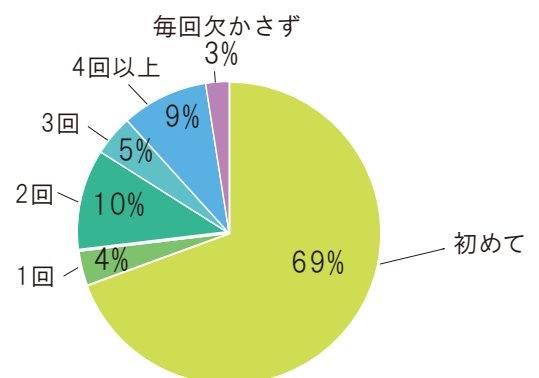
Q2 年齢はおいくつですか？



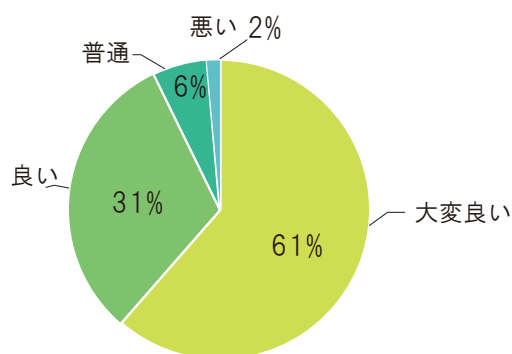
Q3 どちらでこの展覧会を知りましたか？



Q4 博物館には何度目のご来館でしょうか？



Q5 展覧会をご覧いただいた感想はいかがでしたか？



あづみの学校ミュージアム（三郷小学校）

2 ご来館された方から寄せられた声

①展示をみていただいてどう思われましたか？

- ・ オフネが地域でこんなにもちがいがあるのかとおどろきました。
- ・ 安曇野のオフネの数の多さや形のちがいに驚きました。
- ・ これだけ多くの地区で独自の船がつくられているとは思わなかった。
- ・ お祭りの歴史的要素がもっと知りたい。たとえば安曇族との関り等。
- ・ ちょっとごちゃごちゃした展示になっていないか。説明の文字が細かすぎる。
- ・ 実際に曳いている所を見た人は少ないのでは？だから価値がある。
- ・ 舟にかかわったことがありますので関心は常にあります。
- ・ 企画や飾りつけなど工夫がされていて良かったです。
- ・ 泉小太郎は生きていたかのように力強くすばらしいです。
- ・ 伝統、歴史の継続の努力を感じました
- ・ 穂高祭りのかざりものは有名で何度も拝見したが理解が深まった。
- ・ オフネ祭りについて知らなかったので良いきっかけになりました。
- ・ それぞれ各地で時代により変化してきているので、その歴史も展示できれば良いと思う。
- ・ 非常に伝統を感じた。ぜひ各地区で種々の祭りを続けていきたい。



すみよし
住吉神社のオフネ

②お祭り展を含め今後どのような展示を望みますか？

- ・ 安曇野の祭り展を定期的にやってほしいです。
- ・ オフネの展示は数年おきに場所を変え継続してほしい。
- ・ 今回の展示はとても見やすかったので今後も同様の企画をお願いします。
- ・ お祭り関係の展示資料などまとめて冊子にしてほしい。
- ・ 宣伝などもっと工夫し、もっともっと多勢の人に見てもらおう努力をして。
- ・ オフネの実物が一堂に集まるところを見たい。
- ・ 小さな子どもも楽しめる展示にしていってください。
- ・ 来年は道祖神祭りの予定だと聞きました。展示に期待し楽しみにします。
- ・ もうちょっと歴史的な説明がほしい。お船の由来とか意味説明がほしい。
- ・ 歴史的、地域的なことを順次考案されたらと思います。
- ・ 他にも良い展示場があるので、幅広く各種分野の展示をやってください。
- ・ 当地の歴史、伝統に基くものの展示を企画してください。



うしお
潮神明宮のオフネ

安曇野市直営の博物館として新たなスタートを切った今年度、ここまで示した内容で事業を進めてまいりました。外部からのお声を反映させた改善や、数値として記録に残る成果などからも確かな手応えを感じ、今後の活動につながるありがたい面が多数ありました。しかしその反面、まだまだ至らない点や検討課題も明らかになってきています。

来年度も、より親しまれ、わかりやすく充実した博物館活動を目指し、引き続き努力してまいります。特に以下の点に力を注いでいきたいと考えています。

親しみやすく充実した文化の発信源として、博物館は進化します

★わかりやすい展示と発信していく博物館

博物館ならではの専門的な内容を独自の切り口でわかりやすく展示し、市民のみならずにも身近にとらえていただける内容を心がけていきます。また、従来のお客様のみならず多様なお客様に応じた、わくわくするような展示とお気軽にご参加いただける活動を増やしていきます。

★気軽に立ち寄れる身近な博物館

入り口から看板、展示方法やキャプションなど細部にわたって工夫を凝らし、お客様が楽しんでいただけるような空間をつくります。

★誰もが快適で安全な博物館

博物館のシンボルでもある屋根瓦とトイレの改修を予定しています。さらに、2階の常設展示室を中心に大規模な展示替えを行います。

今後とも厳しくも温かく、当博物館とお付き合いくださいますようお願い致します。



「一度は見たい！明科の歴史と文化 ～埋蔵文化財を中心に～」より



平成 24 年度 年 報

— 博物館はこんなことをやりました —

発行者 安曇野市豊科郷土博物館

〒399-8205 長野県安曇野市豊科 4289-8

TEL 0263-72-5672 FAX 0263-72-7772

公式ブログ <http://toyohaku.jugem.jp/>

発行日 平成 25 年 5 月 15 日
